

北海道文教大学短期大学部

平成18年度第三者評価

機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

北海道文教大学短期大学部の概要

| | |
|-------|---------------|
| 設置者 | 学校法人 鶴岡学園 |
| 理事長 | 鈴木 武夫 |
| 学 長 | 鈴木 武夫 |
| A L O | 鈴木 貢 |
| 開設年月日 | 昭和38年4月1日 |
| 所在地 | 北海道札幌市南区藤野400 |

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

| 学科 | 専攻 | 入学定員 |
|--------|----|------|
| 幼児保育学科 | | 140 |
| | 合計 | 140 |

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

北海道文教大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月22日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神、教育の理念は極めて明瞭で、四年制大学と短期大学で、時代に即応しながら学園経営がなされている。

教育目的・目標を実践的に教育課程に具体化し、地域に根付いた保育者養成に取り組んでおり、教育目標として掲げていることを意識的に学園生活に反映している。

短期大学設置基準を十分に充たす教育環境の中で、意欲的な教員による教育実施体制が整っていて、機能している。図書館や授業用の機器・備品も整備され、活発な短期大学の教育を展開できる実施体制と認められる。

学生支援については学習支援と進路・就職支援が一貫性をもって実施され、十分な内容と実績を上げている。

就職率および専門就職への就職率がいずれも良好であり、有能な学生を社会へ送り出し続けている。

効果的な教育指導には、その裏付けとなる教員の専門領域での研究活動が必須であり、それを支援する体制がおおむね確立されている。

当該短期大学の施設・設備、スタッフおよびノウハウを地域社会に向けて開放かつ活用して、地域社会の再生に貢献しようという努力が認められる。この中で、学生のボランティア活動を積極的に促進している。

理事長は大学および短期大学の学長を兼務しているが、理事会、教授会などを運営して全権を掌握し、適切なリーダーシップを発揮し、各種規程に基づき管理運営を行っている。

財務管理は法人本部で一元化されており、その方針は理事会の予算方針に基づいた適切なものである。貸借対照表比率に関しても、全国的な平均をすべての面で上回っており、学校法人運営が健全で、安定的に推移しているものと思われる。現状では、定員の充足も

良好で、それに応じた財務内容となっている。

平成18年度は、併設の北海道文教大学も認証評価を受けており、学園として大学、短期大学いずれの教育・研究も充実させ、かつ財政そのほかの学園の経営の安定にも努めている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 教育の内容

教育目的・目標を具体的に実施する科目としての「マナー演習」をはじめ、社会的経験を積む機会を重視し、学生が実践的に子どもと関わる機会を作ることができる教育内容となっている。

評価領域 教育の実施体制

校地・校舎は十分な面積と設備が整えられており、図書館は入館しやすく、また利用しやすく配置されている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

教育目的・目標を具体化し、幼児保育学科を創造しようという姿勢が明確であり、それは専門領域への高い就職率に表れている。

評価領域 学生支援

学生自身の主体的な活動が非常に活発であり、かつ地域に開かれたイベントやサポートなどの各種企画は好感をもって受け入れられている。それらをサポートする教職員の連携もまた効果的に機能している。進路支援も万全である。

評価領域 社会的活動

子育て支援活動の展開や在宅心身障害児(者)へのボランティア活動、授業の一環としての学生の海外研修の実施は特記される取組みである。

評価領域 管理運営

理事長の強いリーダーシップの下、教職員一同が緊密な連携をとり日々の業務を励行している。諸会議での情報は遅滞無く各教職員に伝達されている。

評価領域 財務

現段階では、財務運営、財務体質に関しては、非常に良好な比率を示し、問題なく健

全に推移しており、必要な施設設備に関しても過不足なく整備されている。

評価領域 改革・改善

自己点検・評価の資料を『2004年度北海道文教大学年鑑』として編集して刊行し、広く公開している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育の内容

シラバスの作成にあたっては、履修に関わる十分な情報提供に努め、適切な表現の工夫が望まれる。

教養教育の開講科目の幅を広げるなど、一層の充実に努められたい。

評価領域 学生支援

学生のメンタルケアについては、相談室設置など組織的な対応が望まれる。

評価領域 研究

研究の業績が充分でない教員については、さらなる研究に努めるよう研究・研修体制の整備、充実を検討されたい。

評価領域 社会的活動

国際交流・協力における双方向的交流と、教員の国際交流の機会についても検討されたい。

評価領域 管理運営

個人情報保護法に関する規程を整備されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

| 評価領域 | | 評価結果 |
|------|----------------------|------|
| 評価領域 | 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標 | 合 |
| 評価領域 | 教育の内容 | 合 |
| 評価領域 | 教育の実施体制 | 合 |
| 評価領域 | 教育目標の達成度と教育の効果 | 合 |
| 評価領域 | 学生支援 | 合 |
| 評価領域 | 研究 | 合 |
| 評価領域 | 社会的活動 | 合 |
| 評価領域 | 管理運営 | 合 |
| 評価領域 | 財務 | 合 |
| 評価領域 | 改革・改善 | 合 |

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

創立者の掲げた学訓「清く正しく雄々しく進め」が学生便覧そのほかに明記され、教職員、学生に共有されている。

学訓をふまえ、豊かな人間性、健全な社会性、高度な専門性という教育目標が掲げられ、幼児保育学科としては「子どもの豊かな『心をはぐくむ』保育を行うことのできる保育者の養成」を目標としている。毎年度末に教育の状況を点検し、見直しを行っている。

単科の短期大学であるため、問題意識の共有が円滑になされ、保育士・幼稚園教諭養成の質を高める努力がなされている。

建学の精神、教育の理念は極めて明瞭で、四年制大学と短期大学で、時代に即応しながら学園経営がなされている。

評価領域 教育の内容

平成17年度に、学科の教育内容の改革を行い、また幼稚園教諭二種免許と保育士資格を取得するための教育課程については常に見直し、充実を図っている。

幼児保育学科として目的意識のはっきりしている学生に対して、適切な教育課程が編成されている。社会的経験を積む機会を重視し、学生が実践的に子どもと関わる機会を作っている。

授業内容は、シラバスによって学生に明らかにされている。また、評価方法についても、明確に示されている。

教育目的・目標として「健全な社会性」を挙げ、「全日本マナー検定」を効果的に実施している。また「舞踏表現」や「舞台表現」の選択科目にみられるように、特徴をもった科目を設定している。

評価領域 教育の実施体制

短期大学の教員にふさわしく、かつ業務に意欲を持った者が、短期大学設置基準などを充足する教員数が確保されており、教育の実施にあたる責任体制は整備されている。校地・校舎の面積は十分に短期大学設置基準を充足し、かつ教育環境として有効に整備また活用され、恵まれたものとなっている。

図書館は十分な広さと図書館資料などを蔵した施設・設備である上に、入館しやすい配置と活発な利用を促すフロアとして工夫されている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標として人間的資質の涵養、社会的常識の養成、専門的能力の育成の3点を明確に示し、「マナー演習」や専門家による「舞台表現」指導なども取り入れ、積極的に努力している。また、学生の学習意欲を育てる事だけでなく、アカデミックアドバイザー制によって学生の悩みや疑問にも対応できるよう工夫している。

過去5年間を見ると、95～99%の学生が就職していて、実績は明らかである。専門職への就職率も高く、常に90%以上を維持している。就職先での評価については具体的な調査は行っていないが、実習巡回時や大学行事、同窓会などの折に情報を収集している。

評価領域 学生支援

大学案内に建学の理念などが学長の言葉で簡明に述べられ、短期大学の求める学生像や教育像が明確である。入学者選抜なども多様な形態で実施され、入学手続き者に対しては学科の情報を『学科レター』を通して発信するなど工夫が感じられる。

独自のアカデミックアドバイザー制を導入するなど学習支援に努めている。学習の動機付けもこの制度を活用して効果的に行われている。

学生のメンタルケアについては、相談室設置など組織的な対応が望まれる。

学生支援の教員や職員組織は互いに連携しながら効果的な成果を上げている。学生自身の主体的活動も活発で、学園一体となった良好な雰囲気醸成している。

就職指導室が効果的に機能しており、進路支援の年間プログラムも整備されたものとなっており、高い専門職の就職率を達成している。

支援体制はあるものの、留学生などや社会人学生の受け入れ実績は無い。

評価領域 研究

研究や教育に対する実践活動やその成果については年毎に報告が義務付けられており、教員間での情報の交換も行われている。外部機関からの研究費調達の実績はないが、研究活動は論文の発表などで一定の成果をあげている。

研究経費については規程も整備され、経費の額も妥当な水準にある。研究発表の機会も学内紀要として確保されている。研究室や情報収集のためのネットワーク環境も整備されている。研究に関わる機器や備品についても充分整備されている。ただし、研究日に関しては規定が整備されていない。

評価領域 社会的活動

各種の社会的活動の計画と実績があるが、中でも3年目に入る「ぶんきょうワクワク広場」と称する子育て支援活動への積極的取組みが推進されており、地域社会の再生に貢献しようという努力が認められる。

子育て支援活動への学生のボランティア参加や在宅重症心身障害児（者）への訪問活動がみられ、またボランティア活動への表彰制度があり、積極的に取り組んでいる。

学生に関しては、3年目に入る「海外研修（幼児教育比較研究）」（1単位）を開設しての海外研修がなされるなど、取組みの努力が開始されている。

評価領域 管理運営

理事長は大学および短期大学の学長を兼務しており、短期大学の運営にリーダーシップを発揮している。理事会は規定に基づき開催されている。

教授会は規定に基づき、学校運営上の議題を適切に審議しており、教授会決定事項以外・決定以前の内容は学科会議において活発に審議されている。

多種の管理運営諸規程を定め、経験豊富な職員を配置して多様なニーズに応え、適切に業務を行っている。ただし、休憩室の設置により、休養と業務の区別を明確にされたい。

教職員の就業に関する規定は適切に整備され、それらの規定に基づいた運営が行われている。学科会議などでの各種決定事項の確認などは、教職員が一体となって、緊密な連携を図って行っている。

評価領域 財務

理事会の予算方針に基づき適切に執行されている。中・長期財務計画に則って、大学・短期大学・高等学校・幼稚園の独立採算制のベースに対応しているが、部門間の調整に努めている。

資金収支計算書、消費収支計算書および貸借対照表において、過去3ヶ年にわたり健全な財務管理がなされており、教育研究経費などの配分も適切に行われている。

固定資産管理規程、物品管理規程、図書管理規程、消耗品および貯蔵品管理規程などが整備され、施設整備の維持管理に関しても定期的な点検が適切に行われている。

財務管理は法人本部で一元化されており、その方針は理事会の予算方針に基づいた適切なものであり、また、監事と会計士の連携も密接である。貸借対照表比率に関しても、全国的な平均をすべての面で上回っており学校法人運営が健全で、安定的に推移しているものと思われる。現状では、定員の充足も良好で、それに応じた財務内容となっている。

評価領域 改革・改善

平成5年に規程を制定し、自己点検・評価委員会を中心として活動を行ってきた。平成9年度にその報告書を刊行し、以後今日まで4回報告書を作成し、ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動に努めている。

大学評価委員会は学長自らが委員長を務め、全教職員が同一歩調で取組んでいる。新たに教育開発センターを発足させ、体系的な教育課程の編成や教育方法の改善などに取組み始めている。

平成12年に福島学院短期大学と相互評価を行い、その結果をふまえた改善に努め、教育研究の充実向上を図っている。